

沼津高専だより

第107号

平成27年7月1日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



スポーツ大会



新入宿泊研修



スポーツ大会 サッカー優勝チーム



防災訓練



入学式 宣誓

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	
☆新年度にあたって（年度方針等）	
夢を叶えよう！ —努力は必ず報われる—	…… 学校長 藤本 晶 …… 4
メンタルヘルス支援への取り組み	…… 4
新たな段階を迎える教育改革	…… 副校長（教務主事） 蓮 實 文 彦 …… 5
新年度にあたって	…… 校長補佐（学生主事） 大久保清美 …… 5
平成27年度の学寮スタートにあたって	…… 校長補佐（寮務主事） 小 林 美 学 …… 6
平成27年度のはじめにあたり	…… 校長補佐（専攻科長） 高 野 明 夫 …… 6
平成27年度 機械工学科担任の紹介	…… 機械工学科長 村 松 久 巳 …… 7
平成27年度を迎えて	…… 電気電子工学科長 佐 藤 憲 史 …… 8
新年度にあたって	…… 電子制御工学科長 遠 山 和 之 …… 8
あいさつが基本	…… 制御情報工学科長 藤 尾 三 紀 夫 …… 9
平成27年度にあたって	…… 物質工学科長 後 藤 孝 信 …… 9
リベラルアーツ	…… 教養科長 勝 山 智 男 …… 10
☆人事異動について	
平成27年度 人事異動	…… 11
平成27年度 校務分掌・学級担任	…… 12
平成27年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	…… 13
平成27年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー	…… 13
☆着任挨拶	
はじめまして	…… 機械工学科 前 田 篤 志 …… 14
未来産業人材の育成を目指して	…… 電気電子工学科 大 津 孝 佳 …… 14
熱望していた地での教育と研究に携わる喜び	…… 電子制御工学科 鈴 木 静 男 …… 15
第二の故郷、沼津へ	…… 電子制御工学科 小 谷 進 …… 15
研究と社会の架け橋に	…… 物質工学科 大 島 一 真 …… 16
異文化の風が吹く英語クラスを目指して	…… 教養科 村 松 直 子 …… 16
わくわく、ときどき	…… 学生課長 宇 野 裕 之 …… 17
☆新入生から（入学にあたり）	
新天地	…… 1年3組 吉 田 菖 悟 …… 17
人柄のよい技術者とは	…… 1年4組 渡 邊 裕 香 …… 18
期待に応えるために	…… 1年5組 佐 々 木 謙 人 …… 18
☆卒業生から	
「何を学んだか」	…… 機械工学科48期 宮 川 綾 音 …… 19
沼津高専はすごい！	…… 電気電子工学科42期 倉 田 将 輝 …… 20
☆留学生から	
留学生から	…… 機械工学科3年 アハマド シャキル ハキム ビン モハマド ユソフ …… 20
留学生から	…… 制御情報工学科3年 アミル ラフィック ビン モハマド ナシル …… 21
皆さんこんにちは	…… 物質工学科3年 ムタヒ フェイス ジョキ …… 21
☆寮生会活動について	
寮生会の取り組み	…… 電子制御工学科4年寮長 水 溜 雄 作 …… 22
☆私の高専時代	
大好きな沼津高専	…… 工業化学科21期 竹 口 昌 之 …… 22
☆教育後援会から	
会長就任のご挨拶	…… 教育後援会会長 鈴 木 邦 裕 …… 23
☆入学に際して保護者から	
高専という名の船に乗り	…… 新入生保護者（1-1） 長 澤 由 美 …… 23
子供と共に成長を	…… 新入生保護者（1-2） 秋 山 宗 紀 …… 24
☆事務部から	
平成27年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	…… 24
平成27年度（8月～3月）行事予定表	…… 26

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

本科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専攻科

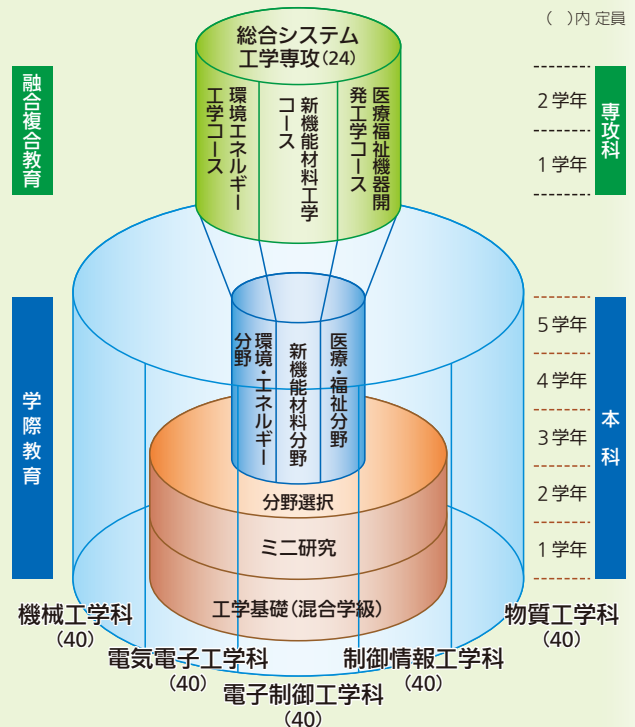
教育方針

融合複合領域の学際分野においてイノベーションを創出できる実践的・創造的エンジニアを育成するために、融合複合領域の専攻科実験、長期インターンシップによるエンジニアリングデザイン教育の実質化及び専攻科研究のマンツーマン指導などの教育方針のもとに以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- ①社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的思考力
- ②数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- ③工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- ④コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- ⑤産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

本科の学際教育を深化する専攻科3コース



新年度にあたって (年度方針等)



夢を叶えよう！
—努力は必ず報われる—

学校長
藤本 晶

4月に校長として着任しました。3月までは和歌山高専の電気情報工学科の教員として、電子工学や電子デバイスなどの科目を担当していました。学生の質問に応じたり、試験の結果が芳しくなかった学生の補講を行なったり、「なぜこれが解らないのだろうか?」と悩んだり、また卒業研究生や特別研究生と研究内容について議論をして「そんな考えもあるのか」と感心したり、進路や将来のことなどについて語りあったりするごく普通の高専教員でした。

生まれ育ったのは京都市左京区で、小学校時代は、機械いじりや電気工作が好きな典型的な理系人間だったようです。中学に入ると、アマチュア無線の免許(当時の電話級、電信級、そして二級)を取得して、自作の無線機で深夜まで見ず知らずの方と交信する、そのような少年でした。そのようなことから、中学卒業後は地元の公立高校ではなく、設立間もない、卒業生も出ていない奈良高専の電気工学科に進学することになりました。

奈良高専で5年間、親元を離れて寮生活やクラブ活動、そして専門の勉強を楽しみました。授業や学園祭や体育祭、修学旅行に工場見学、そして休憩時間や放課後の遊びに至るまで、5年間同じクラス、同じ仲間と過ごしました。試験前には明け方まで寮の仲間と分からないところを教えあったり、出題を予想しあったりもしました。この5年間の高専生活を通じて、卒業後40年以上経った今も付き合える、一生涯の友人をつくることができました。

卒業後は地元には本社や研究所があった立石電機(現オ

ムロン)に就職し、半導体発光素子の開発に没頭しました。そのとき開発した発光ダイオード(LED)は同社の光センサーに搭載されています。その後縁あって和歌山高専の電気情報工学科に転職し、寮務主事、教務主事、副校長、専攻科長を歴任することになりました。この転職により、「高専」という教育制度の「学生」の立場、「OB」の立場、「教員」の立場、そして高専を「運営」する立場を経験することになりました。

若い時から専門に興味を持って高専で学び、高専卒の肩書を持って企業で19年間技術者として働き、その経験を基に和歌山高専で24年間教員として過ごしてきました。高専との付き合いは学生時代を併せると、今年で30年目になります。学生目線と教員目線との両方で高専を見てきたこととなります。そんな中で今となって思うことは、私自身の自戒を込めて、なぜもっと努力をしないのだろうか?今努力しないで、何時できるのだろうか?ということなのです。

私を含め、大人は人生の結果が既に出ています。将来の伸びしろは多くありません。しかし学生の方は人生のスタートラインに立ったところです。伸びしろだらけだと言っても過言ではありません。必死に努力すれば、ほとんどのことを実現できるでしょう。夢は必ず叶う、そのような可能性があります。精一杯努力ができ、そして結果がついて来るのは若い間です。大人になってからは遅いのです。時間は限られています。精一杯努力して欲しいと切に思います。

高専は、技術者を養成する学校です。沼津高専では、そのための最適なカリキュラムを準備しています。沼津高専で精一杯勉強することが、皆さんの夢を実現する第一歩となります。沼津高専で勉強することで、まずは自分の専門分野を確立し、その上でいろいろな可能性にチャレンジして欲しいと思います。努力して「叶わない夢は無い」、努力は「必ず報われる」、そんな強い心、信念をもって日々の学習に取り組んでください。

メンタルヘルス支援への取り組み

日頃より、本校の学校運営につきましては、保護者の皆様のご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本校におきましては、お預かりしている学生の健全な育成に向けて、教職員一丸となって教育・指導に取り組んでおりますが、昨年度、学生が自死に至る事件がございました。原因については解明には至っておりませんが、学内における聞き取り調査の結果によりまして、警察の事情聴取におきまして、いじめ等の事件性はないとの報告を受けております。

しかし、いかなる場合であってもこのような事件があったりはなりません。そのため、本校ではこのような事件を二度と発生させないように、学生に対する指導体制の確認・見直しを行いましたので、ご報告いたします。

まず、年度当初に全学生を対象としてメンタルヘルスに関するアンケートを実施いたします。アンケートの結果、自殺に至る可能性が高いと思われる学生に対しては、担任による迅速な面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングを行います。併せて、全保護者にアンケートの結果をお知らせいたします。

さらに、日常的に学生の相談体制の充実を図っております。平日の放課後には、学生相談として学生生活支援

室の教員が常駐して、各種相談に対応します。より専門的な知識が要求される相談につきましては、週に2回、スクールカウンセラーによる相談、月に1回、精神科医による相談も受けられるようにしております。

新入生の保護者の方には、スクールカウンセラーによるメンタルヘルス講演会を実施し、本校学生のメンタルヘルスについてご聴講いただけるようにしております。

在校生のうち、人生の大きな転機を目前にした5年生につきましては、精神科医によるメンタルヘルス講演会を

実施し、就職活動、大学受験に備えたメンタルヘルスについて聴講を義務付けております。

また、学生だけでなく、教職員に対しましても、スクールカウンセラーによるメンタルヘルスに関する勉強会を実施し、参加を義務付けております。

このように本校におきましては、二度と自殺を発生させない、という強い意志の元に取り組んでおりますので、引き続き、保護者の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



新たな段階を迎える 教育改革

副校長（教務主事）
蓮 實 文 彦

本号が発行される7月、前期中間試験結果も出揃う頃。新鮮な気持ちで新学期を迎えた学生諸君の一人でも多くが笑顔で結果を見ている姿を期待しております。

本年度、和歌山高専から藤本新校長をお迎え致しました。奈良高専電気工学科ご出身で、高専教育に理解と愛情を持たれる先生です。和歌山高専では寮務主事6年、教務主事6年、専攻科長2年と学校を支える要職を永年務められました。企業での経験も豊富であり、和歌山高専では産学連携にも熱心に取り組まれました。専門は電気電子分野であるにも関わらず、和歌山県の地場産品を生かした数々の食品を開発され製品化まで行われました。その多くの実績は、数々の工夫と努力の結晶でした。藤本校長の取り組みは高専教員の模範となるものです。私たち沼津高専のリーダーに相応しい校長に着任頂きました。

藤本新校長は、柳下前校長が進めてこられた沼津高専版教育改革である教育の高度化「学際教育」と「改編専

攻科」を継続して推し進めてくださるとのお考えを示されました。その「学際科目」は本年度、新たに4年生に導入されます。特に後期に全学で取り組む「社会と工学」は、沼津高専の次世代での社会的役割を示す先駆けとなるものと考えております。この授業は学生自身が地域の抱える課題を調査、得られた課題をこれまでに学んできた知識と技術で解決のための具体的技術を提案、地域の方々（企業、金融機関、行政関係者）を招待した成果報告会（仮）で発表します。この取り組みは4年生で終わらせるものではなく、5年生の学際科目や専攻科研究につながる切っ掛けを与える狙いがあります。この教育プログラム構築には、沼津高専の次代を担う若手の教員団が準備に当たっております。

学際科目「社会と工学」を支援する仕組みづくりも進んでいます。平成27年3月、静岡県東部7商工会議所との業務協定が締結されたのに加え、同じく県東部4信用金庫との業務協力覚書締結がそれです。

教務関係の最大の課題の一つ、留年・退学者の現状について触れさせていただきます。平成26年度の留年者数は35名、退学者数は18名でした（計53名）。昨年度と比べ留年者数17名増、退学者数5名減でした。一昨年度の留年、退学者数のいずれもが減少であったものが、昨年度は留年者数で増加でした。本年度、この問題の抜本的な改革に取り組めます。



新年度にあたって

校長補佐（学生主事）
大久保 清 美

学生主事4年目になりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

さて学生主事の掌理事項は、一言でいえば学生の厚生補導に係ることですが、その中でも特に、登下校時や課外活動中の事故、メンタルヘルス、及び非違行為（いじめ・犯罪など）に対する「リスクマネジメント」に留意します。

登下校時の交通事故防止のために、平素から学生委員

会を中心に交通安全指導を行っています。その甲斐あってか、交通事故件数は漸減傾向にあります。また牧堰橋と北小林の変則五叉路間の狹隘道路（通学路）における本校独自の通行ルールもかなり定着してきました。しかし、これは寮生をも含みますが、まだ我々の目の届かない所で自転車等の無謀運転をする学生がおり、近隣住民等から苦情を頂いています。学生諸君は常日頃から交通規則を順守し、安全運転を心掛けてください。

自転車の盗難防止のために数年来、二重ロックを義務付け指導していますが、これもだいたい定着してきました。その結果、自転車の盗難被害はほとんど無くなりました。

前年度の反省を踏まえ、学生の自殺予防には特に留意致します。今年度から、従来行ってきた「こころと体の健康調査」(自殺予防アンケート)の結果を全保護者にお伝えし、これまで以上にご家庭と学校とが連携すること

により、学生の命を守って行きたいと考えています。

今年度の学生会は、課外活動補助金の配分方法に関する新ルール作りに真剣に取り組み、また学生会活動の活性化を模索するなど、意欲的な姿勢が見られます。今後の活動に期待します。

課外活動関係では、近年活動が盛んな天文同好会が天文部へ昇格、新聞同好会（仮）が廃止、アカペラ同好会（仮）が継続、数理同好会（仮）が新設となります。クラブ同好会の設立はスクラップ・アンド・ビルドが原則ですので、（仮）の付いている同好会は、一時的な活動だけ

では正規の同好会にはなれません。継続的な活動を心掛けてください。

東海地区高専体育大会については今年度、本校の担当種目は硬式野球と卓球になります。また、全国高専体育大会は、第50回の記念大会を迎えます。

最後になりますが、今年度は、東海北陸地区高専ロボコン大会が、全国の地区大会のトップを切って、本校主管で10月4日(日)、沼津駅北口のプラサ・ヴェルデ多目的ホール（キラメッセぬまづ）にて開催されます。応援よろしくお願い致します。



平成27年度の 学寮スタートにあたって

校長補佐（寮務主事）
小林 美学

この4月から寮務主事を務めています。寮務主事としては新生と同じ一年生。はじめは戸惑いが多く、力の抜き加減が分からないところもありましたが、新生と同じく5月連休が過ぎた今、少しずつ慣れて来ているような気がしています（この原稿を書いているのは5月中旬、寮祭前です）。

それでもまだまだ慣れないのが朝礼と、木曜会と呼ばれる教員と寮生会の合同会議です。寮生会は私から見ると指導が少し厳しいのではと思うところもありますが、寮長をはじめ組織的に自主的に動き、寮生の統制の仕方も学生とは思えないほど見事です。寮生も一部の不屈者を除けば、不自由な環境の中、親元から離れてよくがんばっています。しかしやはり、さらになんぼってほしいところが目について、朝礼や木曜会では小言ばかり言っているような気がします。もう少し話が上手くなって、彼ら彼女らのがんばりを上手に褒めながら話ができればと思います。

さて、今年度のスタッフを紹介します。教員は主事1名、寮監1名、主事補4名を含めた17名。職員は係長1名を含めた4名に寮監補1名が加わります。主事は一年生ですが、スタッフに助けられてここまでやってきます。寮生会本部役員は寮長D4水溜君、副寮長M5足立



寮生会本部役員

君をはじめとする17名です。写真にて、本部役員たちの頼もしい顔つきをご覧くださいと思います。

みなさまご存知のとおり、本校の寮は教育寮であり、上級生が下級生を指導するスタイルをとっている寮です。先に少し述べたように、寮生会の指導には少し厳しいのではないかと思うものも時にありますが、決して一部の役員の個人的な感情で指導しているわけではなく、寮生会は寮生会なりの理由を持って、チェック体制も維持しながら指導にあたっています。明らかにやり過ぎだと思われるものは意見していますが、様子を見つつ、彼ら彼女らの考えも聞きながら、教員の考えも伝えながら、一緒に指導について考えていきたいと思っています。

昨年度は、今も痛惜の念に堪えない出来事がありました。保護者のみなさまにも多大なご心配をおかけしました。今年度は寮内でも低学年を対象としたメンタルヘルスに関する講座を取り入れながら、寮生一人一人が安心して生活できる環境をめざす所存です。



平成27年度の はじめにあたり

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

専攻科長の高野です。日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。専攻

科は、従来の3専攻体制から1専攻3コース体制へと教育課程が改編され、1年が経過しました。専攻科には現在、1年生26名、2年生24名の計50名が在籍していますが、コース別では、環境エネルギー工学コースに14名、新機能材料工学コースに15名、医療福祉機器開発工学コースに21名が在籍しています。

今年度の専攻科は、昨年度に引き続き、教務主事と私の他に、3コース長（大庭准教授、稲津教授、藤尾教授）、6コース委員（新富准教授、大澤講師、山之内助教、大

久保准教授、横山助教、山根講師)、JABEE支援教員(遠山教授)、相談役(押川教授)の面々で企画運営に当たります。よろしくお願いたします。

新課程では、後期の10月から1月までの約4か月間、1年生に長期インターンシップが課されます。昨年は近隣企業・団体に14名、大学・研究機関に10名の学生が配属されました。4月に入ってインターンシップ参加学生にアンケートをとったところ、次のような結果を得ました。長期インターンシップでは、遠方の場合宿舎が問題になりますが、65%が自宅からの通勤、アパート18%、寮6%でした。交通費については自己負担が60%、実習先負担が33%、残りが一部自己負担でした。内容については、PBL型が50%、PBLと単純作業の組み合わせが22%でした。7割がプラン立てされて実施されていたことが分かります。満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合計すると83%でした。金銭的不満が必ずしも総合的不満になっておらず、金銭的不満はあったが、内容的に満足だったとする学生もいました。金銭的配慮、実習先の数の増加、早めの案内、指導教員と実習先との綿密な打ち合わせなどが、今後の課題と思われます。

本年度のインターンシップについては、新たに経験豊富なキャリア支援室長の長縄教授に企業開拓・訪問に関

し参加していただけることになりました。また、昨年度より、本校は県東部地区の商工会議所や信用金庫と協力協定を結んでおり、その中に専攻科インターンシップへの協力が盛り込まれています。多くの地元企業の皆様に参加表明していただくことにより、交通費や宿舎費など金銭的問題の解消、実習内容に関する綿密な打ち合わせができることを期待しています。

最後になりましたが、前号の高専だよりでお知らせしたように、4月1日より、本校専攻科は、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学の4つの学位専攻について、特例の適用が認められました。特例が適用されたため、学校でまとめて学位申請ができるようになり、学生は、以前のように大学評価・学位授与機構の実施する小論文試験を受ける必要がありません。これにより学生の負担は大幅に軽減されます。ただし、残念ながら機械工学については特例が適用されず、2年間の経過措置として従来通り小論文試験を受けることになりました。2年間の経過措置後については未定の状態にありますが、機械工学も他の4学位専攻と同様の扱いとなるよう学校として努力して参ります。新課程になって1年を経過した専攻科ですが、今後ともよろしくお願いたします。



平成27年度 機械工学科担任の紹介

機械工学科長
村松久巳

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、機械工学科における教育・運営にご理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

本年度の機械工学科の担任を紹介します。1年生副担任は永禮哲生先生、2年生の副担任は山中仁先生、3年生担任は鈴木尚人先生、4年生担任は西田友久先生、5年生担任は三谷祐一朗先生です。3年生、4年生および5年生担任から指導方針を説明します。

私は機械工学科3年(M3)のクラス担任を拝命致しました、鈴木尚人と申します。平成26年度より沼津高専に赴任し、寮務委員として、大変貴重な経験を積ませて頂きました。40人学級のクラス運営は高専の寮務委員と大学でのチューターの経験が役立っています。担当する学生に対し、きめの細かい指導を心がけて行きたいと思っています。3年生から専門科目が増えてきます。専門知識を身に付けて、実力を養うように学業に取り組んでください。高専の学生生活5年間の中間期に、心身を向上し専門性を高め、大きく成長していただきたいと願っています。

4年生担任の西田友久です。4年生では専門科目が多くなり、技術者としての基礎を作る重要な時期ですので、しっかり勉学に力を入れて欲しいです。インターンシップや工場見学など進路に関する行事もあり、自分の将来についてじっくり考えてから進学または就職への道を決めて貰いたいと考えております。就職・進学、いずれの場合も自らが調査して少しでも多くの情報を入手するよう、また、勉学とクラブ活動等の学生時代にしかできないことにも力を入れるよう指導しています。

5年生担任の三谷祐一朗です。5年生の希望進路は、19名が進学、15名が就職です。やりたいことを明確に持って自分の道へ進むよう指導しています。4年次に計4回実施した個人面談で、毎回学生のみなさんが話してくれた自己PRを、まさに今、履歴書という形にする時です。不安もあると思いますが、遠慮なく教員にぶつけ、希望する未来へ歩んで欲しいと願っています。これまでに身につけた専門知識を卒業研究で発揮し、高専生活の最後の年を、卒業後に大きく飛躍するための助走としてください。

新任の前田篤志先生を紹介します。前田先生は新潟大学大学院を修了されて、本校に着任されました。専門は流体計測と流れの可視化であり、教育・研究に大いに活躍されることと思います。寮務委員を担当しますので、よろしくお願いたします。

最後になりますが、機械工学科の教員は学生みなさんの成長と発展を期待しています。成果を得るために、目標を立てて継続的な努力を望みます。目標が達成された

イメージを持ち、また実力と自信を積み上げて前進して
 いただきたいと思います。保護者の皆様には一層のご支

援とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



平成27年度を迎えて

電気電子工学科長
 佐藤 憲 史

電気電子工学科では、今年4月に、42名の新生入生、3
 年生に1名の編入生を迎えました。現在、当学科では、
 1年生42名、2年生45名、3年生42名、4年生42名、5
 年生39名、計210名が在籍しています。鈴鹿高専から転任
 の大津孝佳教授が加わり12名の教員体制で学科を運営し
 ています。また、今年3月で定年退職された江間敏名誉
 教授には、嘱託教授として授業や学生実験の一部を担当
 いただいております。

新学期が始まった4月に、恒例となっている新生入生へ
 の学科説明や上級生への学科ガイダンスを通して、学科
 の特徴と教育内容、心構え等をお話ししました。今年は、
 日々の学習を大切に留年せず、確かな学力をつける
 ことを強調しました。当学科の専門科目のほとんどが数
 学を応用していますが、数学の学力が伴わないことが成
 績不振の要因の一つとしてあげられます。その克服には
 低学年での学習が重要と考えています。そのため、科目
 担当者の交代や学習内容の見直しを実施しました。また、

夏季休暇などを利用して個人指導を強化していく予定で
 す。

各学年で週1回学生実験があり、工学を実践的に学ぶ
 重要な機会ととらえています。2年と4年生の前期では、
 PBL（問題解決型学習）形式で実施しています。5年生
 では卒業研究がありますが、4月早々に研究室の配属を
 決め各自のテーマでスタートしています。また、5年生
 の学生有志を中心に、災害時などに活躍できる移動ロボ
 ットを作製する学科プロジェクトも継続しています。学科
 のホームページ（<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>）に
 教員の研究を含め、これらの活動を発信していきます。

就職や進学活動について近況をご報告します。当学科
 の5年生は39名おりますが、就職希望者14名、進学希望
 者25名と進学希望者が多くなっています。就職における
 求人状況は昨年より良好であり、これまで110社以上から
 採用担当者の訪問を受けました。就職活動は進行中ですが、
 今年から企業による採用選考活動が8月1日以降開
 始となり、社会状況を見ながら対応しています。進学に
 ついては、当校の専攻科はじめ、入学願書の準備が始まっ
 ています。学生の志望に沿って好結果を出すを期待して
 います。

最後に、教育の改善と充実を目指して教員一同全力で
 取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わらぬご支
 援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



新年度にあたって

電子制御工学科長
 遠山 和 之

電子制御工学科長の遠山です。今年度もよろしくお願
 いします。

昨年度、学生が自らの命を絶つという悲しいできごと
 がありました。以来学校カウンセラーによるクラスでの
 カウンセリング、個別学生のカウンセリング等を実施し
 て、学校ぐるみで取り組んでおります。特に精神的に不
 安定になりやすい前期末や学年末などの定期試験期間前
 後には学級担任だけでなく学科教員全員で学生に「声掛
 け」をすることなどを申し合わせ、2度とこのようなこ
 とが起きないように学科として全力で取り組む所存です。

家庭におかれましても、食事や睡眠時間など生活のリ
 ズムが崩れないようケアをお願いしたいと思います。日
 常の子供との会話も極めて重要です。難しい年頃かと思
 いますが、時々学校の様子を聞く等の機会を作って頂け
 ればと思います。また学校と家庭の意思疎通も大切です

ので子供の様子で気になる点があれば学級担任にご連絡
 ください。

電子制御工学科は、新生入生43名を迎え、本科生合計208
 名でスタートしています。

本年度の担任（副担任）は順に1-5副担任が長澤先
 生（1年担任は混合学級のため割愛）、2年担任が教養科
 の村上先生（英語）、副担任が小谷先生、3年担任が青木
 先生、4年担任が牛丸先生、5年担任が鄭先生です。電
 子制御工学科は、昨年度退職された江上先生、出川先生
 に代わって、昨年10月1日に小谷先生、4月1日に鈴木
 静男先生をそれぞれ迎えました。小谷先生は、東海大学
 大学院博士課程修了後、金沢大学大学院医学系研究科や
 製薬関連企業を経て本校に着任されており、ご専門は神
 経科学です。鈴木先生は、北海道大学博士課程修了後、
 京都大学大学院日本学術振興会ポスドク特別研究員、財
 団法人環境科学技術研究所研究員（平成24年4月から副
 主任研究員）などを経て本校に着任されており、ご専門
 は環境や生態系に関する分野です。また、大沼先生が平
 成27年度「教員グローバル人材育成力強化プログラム」
 の採択を受け、4月1日から豊橋技術科学大学で研修を
 受けています。その後、交流協定先のニューヨーク市立
 大学クィーンズ校において、6か月間（7月～12月）の

英語研修を行い、英語での教授法等について本格的に学び、さらに1月から豊橋技科大マレーシア・ペナン校を拠点とした英語実践教育（英語による授業等）を行う予定です。このプログラムは、国立大学改革強化推進事業「三機関（長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学・高専機

構）が連携・協働した教育改革」の一環として、教員のグローバル人材育成強化のため海外研修を実施するものです。

今後とも保護者の皆様のご支援とご協力の程、よろしく申し上げます。



あいさつが基本

制御情報工学科長
藤尾 三紀夫

皆様方のご理解とご協力を頂き、制御情報工学科では3月に41名の卒業生（就職17名、進学24名）を送り出し、4月には43名の1年生、S3に1名のマレーシアからの留学生、S4に1名の編入生を迎え入れることができました。また私自身も学科長として2年目を迎えることができました。保護者の皆様には改めてお礼申し上げます。

制御情報工学科は、鈴木准教授が富士通(株)に研修に出られ10名体制でスタートしています。就職担当には、人事経験豊富でキャリア支援室長でもある長縄教授、進学には経験豊富な長谷教授（5年生の担任）にご担当頂いています。また4年生は面倒見の良い山崎講師、3年生は本学科の卒業生でもある松本講師に担任を、そして2年生は長縄教授、1年生は吉野教授に副担任をお願いしています。松本先生は初めての担任ですが、松本先生の卒業研究指導教員で、本校卒業生の芹澤教授に支援をお願いしています。どのようなことでも構いません、担任にお気軽にお声かけください。

4月に学科長として、御殿場研修で制御情報工学科の1年生に講話をしました。学科概要や将来について、キラキラした目で最後までしっかり聞いてくれました。また昨年同様に「目標（夢）をもってコツコツ努力して欲しい」と話しました。これは新入生だけではなく、全ての学生にも通じることですので、ぜひ早く見つけて欲しいと願っています。一方で、高学年の学生の中には、挨拶が苦手な人が多くなってきていると感じています。挨拶は「自分の心を開く切っ掛け」そして「あなたの敵ではありませんの合図」であり、コミュニケーションの基本です。今年はぜひ「積極的に挨拶をする」ことを学科の目標としたいと考えています。学生の皆さんも、自ら積極的に挨拶をしてみてください。将来必ず役に立ちますし、新しい人間関係に繋がるかもしれません。相手が挨拶しない人であっても「心を開き続ける」ことが大切だと思います。

最後に、本年度のS4は50名クラスとなり、学生の皆さんを始め多くの方にご迷惑をおかけする結果となりました。制御情報工学科では、今年度は進級と卒業について、担任を中心に学科全体で学生の皆さんを支援する所存です。そのためには学生の皆さんの日頃の努力が基本であり、保護者の皆様方のご理解とお力添えが必須です。今年1年、皆様方のご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年度にあたって

物質工学科長
後藤 孝信

本年度も学科長を拝命しました。どうぞ宜しくお願いいたします。

新年度が始まり、初々しい新入生が入学してから3ヵ月が過ぎようとしています。新1年生は、中学校と異なる授業時間や寮生活にも少しずつ慣れてきたのではないかと思います。今年度の物質工学科の学生現員は、1年生42名、2年生44名、3年生49名、4年生47名、5年生39名の総員221名で、5学科の中で最も多い数となっています。これは物質工学科の人気の高いことの現れで、人数が多い分、授業は大変なのですが、学科の一教員としてとても嬉しく思います。なお、3年生、4年生、そして5年生には、留学生と編入生が3名、2名、そして

1名ずつ各学年に在籍しています。

一方教員に関しましては、昨年度に退職された山田先生のご後任として、大島一真教員を物質工学科のメンバーとして迎えることになりました。大島教員のご専門は“固体触媒化学”です。この3月まで早稲田大学大学院 先端理工学研究科 博士課程後期に在籍しており、社会人1年目です。沼津高専の教員として、そして学校を代表する研究者に成長して欲しいと願います。また、藁科教員が在外研究員としてカリフォルニア州立大学へ1年間留学されております。4月1日に米国に発たれました。分析化学の最先端をしっかり学び、技術を体得して、今後の教育と研究に役立てて欲しいと願います。

学科の教育内容につきましては、現在、本科と専攻科での新カリキュラム移行が真っ只中の状態です。学際教育による教育内容の幅が広がるという利点を生かしつつ、今日まで築いて来た教育内容を損なうことなく、教職員一丸となって教育内容の充実に取り組み、今まで以上の進路を確保したいと考えております。一方学科の研究面では、各教員が大変積極的に地域企業との産学連携開発

研究に取り組んでいます。これらの共同研究には卒業研究生（5年生）や専攻科生も参画しており、就職や進学に対するよいオンザジョブトレーニングとなっています。

進路につきましては、昨年度は就職者12名、そして進学者28名（うち6名が専攻科に進学）が学科を巣立っていきました。就職指導は本年度より小職が担当します。既にご承知のことかと存じますが、本年度より就職協定が大きく変更され、企業の採用試験の実施が8月1日以降に制限されました。現在、就職、進学ともに前年度末から引き続いて指導中ではありますが、前年度と同じ状況を作り出せないでいます。しかしながら、学生に工場見学を始めとする企業訪問を頻繁に行わせることで、学生の優秀さを企業にアピールして、就職活動を少しでも有利に展開する努力を学生と相談しながら実施しております。この努力の甲斐あって、工場見学を終えた企業からは採用試験への打診を受けております。一方進学は、6月以降に行われる専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて、5年生担任の大川教員と各研究室の指導教員が学生の準備を促しているところです。就職と進学に共通して言えること、それは“5年間の努力が実を結ぶ”と言うことです。何れの場合にも担当教員の調書、また

は推薦書が必要ですが、その内容が十分に書けないことがあります。学生からも“自分について書くことが無い”と相談を受けます。それ故、学生はこのような状況にならないことを認識し、(1)日頃の勉学に地道に勤む！(2)学内外行事やクラス内行事に積極的に取り組む！(3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を養う！といったことを実行し、自身の価値の向上に日々努めて欲しいと思います。当然のこととして、就職・進学に必要な高学年の専門科目の理解を深めるには、基礎学力の充実は不可欠です。ご家庭におかれましても、低学年の授業科目の学習を怠ることの無いようお話していただきたくお願い申し上げます。

保護者の皆様へ：悩み多い年齢とは思いますが、お子様を励ましながら、時には厳しい態度で自立を促すようご指導をお願いしたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導していきます。学生、保護者、教員のトライアングル関係を円滑に働かせることが、目標到達の最短コースであることは間違いありません。今後ともご支援とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



リベラルアーツ

教養科長

勝山 智 男

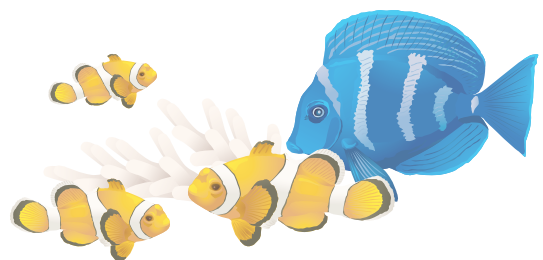
高専の最大の特徴は、高校生から大学生の年齢にかけて一貫して実践的な技術者を養成している点にあります。実業学校ともいえます。実業重視なので、社会の要請に対して敏感にならざるを得ません。日本の置かれた国際的な環境が変化し、地域の産業構造も急変する中で、私たち沼津高専では、従来からの専門教育に加えて、地域産業を見据えた学際教育を導入し、学外実習を強化し、実験実習を重視するなど、新しい教育システムを作ってきました。その中で私たち教養科の教員は、生産活動（高専ではよく『モノづくり』と言われます）にはあまり直結しそうな「一般科目」を担当しています。

日本では「一般科目」「一般教養」などと言われますが、英語圏では、しばしばliberal artsと呼ばれます。なぜliberalなのか不思議な気がしますが、奴隷制が残っていた古代に、奴隷ではない「自由人」は、人が自由に生きるために必要な知を身に付けておかねばならないと考えられていて、その知をliberal artsと呼んだことに由来するそうです。後に哲学者のカントは、学問を、国家や権力にとって有用な神学や医学などと、国家や権力から自由なliberal artsに大別し、たとえ奴隷制がなくなってもliberal artsは必須であり、「有用な知」ばかりを追求してはいけな

いのだと言っています。日本にliberal artsを紹介したのは、沼津にゆかりの明治時代の思想家、西周（にしあまね）で、何と「藝術」という言葉に翻訳しています。

一般教養は、直接仕事に結びつかないと思われがちで、したがって軽く見られがちです。しかし、質の高い仕事をするためにはきわめて重要なのです。いま、大学等で学ぶ一般教養が、「学士力」として見直されてきています。実社会で、困難に直面したときにそれを打ち破ったり、全く新しいモノを創造したりするためには、(高度な専門知識はもちろんですが)、むしろ専門の知識を深めるための方法論や、問題を認識する力、さまざまな人とのコミュニケーション力などが必要になります。リベラルな知に加えて、これらを身に着けることが、現代の高等教育機関の一般教養の目的なのです。高専の卒業生の多くは、生産の最前線で活躍することが求められます。そのときに、困難を乗り越える力を授けたいと願いつつ、日々授業をしています。

平成27年度、教養科では、英語担当の村松教員を新たに迎えて、様々な分野を専門とする25名の教員で一般科目を教えています。どうぞよろしく願いいたします。



平成27年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成27年3月31日	柳下 福藏	定年退職	校長
	江間 敏	定年退職	教授（電気電子工学科）
	山田 祐一郎	早期退職	教授（物質工学科）
平成27年4月1日	藤本 晶	校長に昇任	和歌山工業高等専門学校教授 （専攻科長）
	大津 孝佳	教授（電気電子工学科）に配置換	鈴鹿工業高等専門学校教授
	鈴木 静男	准教授（電子制御工学科）に採用	
	村松 直子	講師（教養科）に採用	
	前田 篤志	助教（機械工学科）に採用	
	大島 一真	助教（物質工学科）に採用	
	江間 敏	嘱託教授に再雇用 （任期：H27.4.1～H28.3.31）	教授（電気電子工学科）
	入吉 修	鳥羽商船高等専門学校総務課長に配置換	学生課長
	宇野 裕之	学生課長に配置換	鈴鹿工業高等専門学校学生課長



平成27年度 校務分掌

平成27年4月1日 現在

校 長 藤 本 晶
副校長（教務主事） 教 授 蓮 實 文 彦
校長補佐（学生主事） 教 授 大久保 清 美
校長補佐（寮務主事） 教 授 小 林 美 学
校長補佐（専攻科長） 教 授 高 野 明 夫
専攻科 環境エネルギー工学コース長 准教授 大 庭 勝 久
専攻科 新機能材料工学コース長 教 授 稲 津 晃 司
専攻科 医療福祉機器開発工学コース長 教 授 藤 尾 三 紀 夫
機械工学科長 教 授 村 松 久 巳
電気電子工学科長 教 授 佐 藤 憲 史
電子制御工学科長 教 授 遠 山 和 之
制御情報工学科長 教 授 藤 尾 三 紀 夫
物質工学科長 教 授 後 藤 孝 信
教 養 科 長 教 授 勝 山 智 男
図 書 館 長 特任准教授 中 園 孝 信
総合情報センター長 教 授 望 月 孔 二 誠 (副) 教 授 川 上
地域共同テクノセンター長 教 授 芳 野 恭 士 仁 (副) 准教授 新 富 雅 仁 (副) 准教授 大久保 進 也
教育研究支援センター長 教 授 小 林 隆 志 (副) 教 授 稲 津 晃 司 (副) 准教授 鈴 木 尚 人

技 術 室 長 教 授 小 林 隆 志 技術長 鈴 木 猛
学生生活支援室長 准教授 眞 鍋 保 彦
キャリア支援室長 教 授 長 縄 一 智
国際交流室長 教 授 鈴 木 久 博
特別課程運営室長 教 授 蓮 實 文 彦 (副) 教 授 藤 尾 三 紀 夫

教 務 主 事 教 授 蓮 實 文 彦
教 務 副 主 事 教 授 高 野 明 夫
教 務 主 事 補 准教授 井 上 聡 秀 教 授 芹 澤 弘 久 准教授 大 庭 勝 久 准教授 竹 口 昌 之

学 生 主 事 教 授 大久保 清 美
学 生 副 主 事 〈欠 員〉
学 生 主 事 補 准教授 永 禮 哲 生 教 授 鄭 萬 溶 准教授 古 川 一 実 准教授 平 田 陽 一 郎 准教授 鈴 木 正 樹

寮 務 主 事 教 授 小 林 美 学
寮 務 副 主 事 〈欠 員〉
寮 務 主 事 補 准教授 佐 藤 崇 徳 准教授 西 村 賢 治 准教授 藤 井 数 馬 講 師 松 田 伸 也

教 科 主 任
国 語 特任准教授 中 園 孝 信
社 会 准教授 佐 藤 崇 徳
数 学 准教授 佐 藤 志 保
物 理 教 授 住 吉 光 介
化 学 教 授 小 林 美 学
体 育 教 授 佐 藤 誠
英 語 教 授 鈴 木 久 博
ドイツ語 教 授 大久保 清 美

寮 監 及 び 寮 監 代 行
寮 監 笹 原 正 和
寮 監 代 行 小 林 美 学 松 田 伸 也 西 村 賢 治 佐 藤 崇 徳 藤 井 数 馬

事 務 部 長 大 山 正 人
総 務 課 長
課 長 補 佐 露 木 弘 充 課 長 補 佐 神 田 貴 由 大 河 由 広
学 生 課 長
課 長 補 佐 宇 野 裕 之 室 伏 啓 二

学 級 担 任							
学年	クラス	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	学年代表
1		成 田 智 子	小 柳 敦 史	鈴 木 正 樹	駒 佳 明	小 村 宏 史	佐 藤 誠
	副	永 禮 哲 生	山之内 亘	古 川 一 実	吉 野 龍 太 郎	長 澤 正 氏	
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	
2		佐 藤 志 保	平 田 陽 一 郎	村 上 真 理	渡 邊 志 保 美	藤 井 数 馬	佐 藤 志 保
	副	山 中 仁	高 矢 昌 紀	小 谷 進	長 縄 一 智	押 川 達 夫	
3		鈴 木 尚 人	小 村 元 憲	青 木 悠 祐	松 本 祐 子	山 根 説 子	鈴 木 尚 人
4		西 田 友 久	大 津 孝 佳	牛 丸 真 司	山 崎 悟 史	青 山 陽 子	牛 丸 真 司
5		三 谷 祐 一 朗	野 毛 悟	鄭 萬 溶	長 谷 賢 治	大 川 政 志	長 谷 賢 治

平成27年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆松本 祐子	渡邊 志保美	鈴木 静男		
ソフトテニス部	☆佐藤 崇徳	平田 陽一郎	村上 真理		
バレーボール部	☆大庭 勝久	小林 隆志	成田 智子		
バスケットボール部	☆遠山 和之	青山 陽子	鈴木 久博		
野球部	☆中園 孝信	小村 宏史	横山 直幸	前田 篤志	大島 一真
卓球部	☆松田 伸也	稲津 晃司	高野 明夫	黒澤 恵光	
柔道部	☆松澤 寛	西垣 誠一			
剣道部	☆澤井 洋	遠藤 良樹	小村 元憲		
サッカー部	☆望月 孔二	長縄 一智	駒 佳明	山崎 悟史	山之内 亘
ラグビー部	☆井上 聡				
体操部	☆佐藤 誠	大久保 進也			
水泳部	☆新富 雅仁	大澤 友克	小谷 進		
合気道部	☆長谷 賢治	宮下 真信			
テニス部	☆竹口 昌之	後藤 孝信	西田 友久	川上 誠	
スキー部	☆嶋 直樹	鈴木 正樹			
ハンドボール部	☆野毛 悟	小柳 敦史	高矢 昌紀	村松 直子	
弓道部	☆芳野 恭士	佐藤 憲史			
空手道部	☆芹澤 弘秀	宮内 太積			
バドミントン部	☆押川 達夫	藤尾 三紀夫	牛丸 真司		
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	鈴木 尚人			
吹奏楽部	☆山根 説子	永禮 哲生	住吉 光介		
囲碁将棋部	☆勝山 智男				
ロボコン部	☆青木 悠祐	山中 仁	大津 孝佳	大林 千尋	
天文部	☆大川 政志				
同好会(理工系)	☆村松 久巳(機)	☆鈴木 康人(プ)			
同好会(芸術系)	☆眞鍋 保彦(合)	☆吉野 龍太郎(軽)	☆西村 賢治(大)	☆佐藤 志保(茶)	☆藤井 数馬(E)
	長澤 正氏(合)				

同好会(理工系) 機械工学・プロコン

同好会(芸術系) 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS

平成27年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏名	担当	氏名	担当
杉山 賢一	内科医	山口 宜子	薬剤師
堰澤 敦	歯科医	宇治 友子	カウンセラー
藤山 航	精神科医	房間 貞	カウンセラー

着任挨拶



はじめまして

機械工学科
前田 篤志

今年の4月から機械工学科に助教として着任いたしました。前田篤志と申します。よろしくお願ひいたします。新潟大学を出て沼津高専にきました。出身は静岡県富士宮市です。高専という環境を今まで経験したことがなく、中学を卒業したばかりの生徒が、卒業する頃には二十歳にまでなるという特殊な環境で、うまく指導していかれるかどうか不安な部分もありますが、それと同時に地元で同じ「工学」の道を目指す生徒たちを指導出来ることがとても楽しみです。

専門は流体工学です。その中でも水の流れを視覚的に捉えられるようにする「可視化」という分野を扱っていました。これからは今までの研究を発展させ、流れ場の先進的な計測方法やそれらを用いた現象解明に取り組もうと考えています。また、専門の幅を広げるために、可

視化は流体だけではなく燃焼や物質など幅広いジャンルに挑戦し、また可視化についても、これまで扱ってこなかった他の技術を取り入れ、電気自動車や医療福祉機器などの今まで触れることの少なかった分野にも積極的に関わり、広い視野で研究・指導を行っていきたく考えています。

初年度の授業は実験と卒業研究を担当いたします。学生が自ら積極的に勉学に取り組めるよう、基礎的な知識・技術はもちろん、最先端の応用技術紹介などを踏まえた授業を行い、実践でも通用するような広い視野と応用力を得て、自分の考えを社会に還元できる実力を身に着けられるような教育を行いたいと思います。また、授業以外でも野球部の顧問や寮務など学生と関わる機会も多くあり、特に寮については学務以外で最も学生の素と対面できる重要な場であると考えています。授業や部活・寮での生活を通し、コミュニケーション能力や今後必要になるマナーの養成はもちろん、学生の疑問や質問・悩み相談などに真摯に応えていきたくと思います。教師一年目、まだまだ右も左も分からない未熟者ですが、皆さんの力になれるよう、私自身も成長するための努力を続けていきたくと思っています。よろしくお願ひいたします。



未来産業人材の育成を目指して

電気電子工学科
大津 孝佳

鈴鹿高専より電気電子工学科教授に転任致しました大津孝佳です。1985年に(株)日立製作所に入社して以来、25年間、ハードディスク用の磁気ヘッドの研究・開発・設計・量産に従事しました。その間、面記録密度は16Mから1TB/in²と約6万倍もの発展を遂げました。磁気ヘッドはそのキーコンポーネントであり、フェライト、アモルファス、薄膜、MR（磁気抵抗効果）、GMR（巨大磁気抵抗効果）、TMR（トンネル磁気抵抗効果）と常に新しい技術を探求し、製品化へと繋げてきました。世界的な視野での研究・開発や採用面接官、特許関連業務にも携わり、継続した技術開発を進めるには、優秀なエンジニアやサイエンティストの育成が不可欠であることを実感しました。鈴鹿高専では、地域の未来を担う産業人材育成として、JSTの地域企業と育てる未来の科学者「みえサイエンスネットワーク」やINPITの知的財産教育推進校事業、三重県教育委員会社会教育委員等に参画しました。例えば5年前、高専を希望した理由は下記です。

1. 近年、理科離れが叫ばれる中、SSH（スーパーサイ

エンスハイスクール）やサイエンスフロンティア系の高校設立など、理科に関心のある生徒を集めることに苦勞されている。高専には理科系に関心のある学生がおり、“スーパーエンジニアやサイエンティストの卵”の密度が高い。

2. 低学年は高校生の科学コンテストに参加できる。普通高校と比べ、一般教育と専門教育の優れた教師陣や実験・研究設備の恵まれた環境の中、“スーパーエンジニアやサイエンティストの卵の孵化”ができる。
3. 高学年は大学生と一緒に、学会への参加が出来る。卒業研究等を通じて、問題発見・解決能力を伸ばし、企業が求める“スーパーエンジニアやサイエンティストの雛”を育て、社会（企業）へ送り出す。更に、専攻科や大学へのコースもある。
4. 専攻科にて、更に専門知識と社会のニーズにあった研究を経験することで、“スーパーエンジニアやサイエンティストの強い雛”に育てる。

つまり、科学技術の進歩が著しい中、5～7年の一環したスーパーエンジニアやサイエンティストの育成が出来ると考えた次第です。

2年生の電気電子工学実験、3年生の電気電子計測、4年生のPBLや「社会と工学」、5年生の電力工学や卒業研究、地域連携・研究支援委員会等に於いて、これまでの経験やニーズを生かしてゆきたいと思っています。ロボコンも高専の魅力の一つです。是非皆さまのご協力の程、

宜しくお願い致します。



熱望していた地での 教育と研究に携わる喜び

電子制御工学科
鈴木 静 男

本年4月1日付けで電子制御工学科の准教授として着任しました鈴木静男と申します。沼津市に隣接する伊豆の国市で生まれ育ち、高校卒業後は静岡県外で生活してきました。

富山大学理学部物理学科4年時に地球温暖化の問題に向き合いたいと考えました。ほとんど勉強したことのない生物学を真剣に独学し、北海道大学大学院地球環境科学研究科へ進学しました。ここで、野外の温暖化実験(北海道・大雪山系で高山植物を対象)を行いました。大学院修了後、ポスドク研究員として京都大学大学院農学研究科で、地球温暖化と密接な関わりのある生態系の炭素循環研究を行いました。マレーシア・ボルネオ島・キナバル山(約4,100m)の4標高(約700~3,100m)やアメリカ合衆国・ハワイ島の火山噴火経過年数が異なる4箇所(約400~9,000年)で森林調査に参加しました。

青森県にあります環境科学技術研究所で研究員として、森林、湿地、水田、畑地及び牧草地の炭素循環を研究しました。湿地を丸ごと野外から大型閉鎖系施設に閉じ込

めて炭素循環を精密に測定した時は、どのように運び入れるか等、先例がなく非常に苦労しましたが、物理学と生態学の素養を土台にして、環境や生態系の問題に対して工学的にアプローチする研究を実践しました。更に、原子力関連施設の核燃料再処理工場から排出が想定される放射性炭素が、各生態系へどれだけ移行するかを予測する数値シミュレーションモデルを構築しました。

富士山が近い静岡県東部の地で研究だけでなく教育にも携わりたいと熱望していたところ、めぐり合わせで沼津高専へ転職することになりました。27年ぶりにこの地で生活し、心から喜びを感じています。昨年11月にこの学校を訪れた時、すれ違う学生の皆さん全ての方が、見知らぬ私に挨拶してくださったことが、とても感動しました。この沼津高専で学生たちと一緒に学べるのが、もう一つの心からの喜びです。

社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を養うために、環境と新エネルギー及び環境と生態系という授業が開講していますが、私はこの授業を担当しています。自分も物理学、生物学、生物地球化学という分野に携わってきましたので、不慣れた分野を身につける苦労を身に染みて理解しています。学生の皆さんが、分野横断的に積極性をもって学べるよう、精一杯支援する所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



第二の故郷、沼津へ

電子制御工学科
小 谷 進

昨年10月1日付で電子制御工学科に講師として着任しました小谷進です。出身は神奈川県相模原市ですが、高等学校を卒業後に東海大学開発工学部に入学し沼津市で一人暮らしを始めました。博士課程のある東海大学医学部は神奈川県伊勢原市にありましたが、修士課程で在籍していた研究室で行っていた研究をそのまま継続したため、沼津の部屋を引き払わず沼津と伊勢原を行ったり来たりする日々を過ごしていました。結果的に10年間沼津に住んでいたこととなります。沼津高専へ着任することが決まり、住まいを探しながら変わってない町並みと、開発されてすっかり当時の面影がなくなってしまった場所を見ながら、沼津に帰ってきたという嬉しい気持ちになりました。

さて、学位取得後は金沢大学医学部で「ヒトの食品による認知機能の改善効果」について研究しておりました。

その後、製薬関連企業の研究所で創薬研究に従事してきました。図らずも薬学部に進学し医薬品の研究をしたいと思っていた高校生の頃の夢が叶ってしまいました。その後、理化学機器を取り扱う専門商社にて製品を実際に研究で使用していた経験を活かし、導入時や導入後の問題解決法を提案するコンサルタントの業務を行っていましたが、大学院在学時には寢食を忘れて研究に没頭する程に熱中していたので、国立の研究所や大学の研究室を訪問するたびに、当時のことを思い出し教育研究機関に戻り、研究遂行と共に人材を育てる仕事がしたいと思いが強くなり、縁あって沼津高専に着任いたしました。

工学の関わる研究・開発分野は、医療をはじめとする生命科学分野にも裾野が広がって久しく、技術者は医学・生物学・工学など多様な学問と横断的に連携を図ることがますます望まれています。そこで私は、これまでの知識の蓄積に重きを置いた教育ではなく、知識を獲得するための方法を教育したいと考えています。博士課程在学時のティーチングアシスタントにおいて『安易に答えを与えるのではなく問題解決の糸口になるようなヒントを与え、学生自らが考えて問題を解決させる』方針で学生に接してきました。これは教員の立場から学生の指導を行う上でも同じと考えます。

これら方針に基づき教育を行うことで、高専で身につけた能力が学生にとって一生役に立つことを願って教育

を行っていきたいと思っています。



研究と社会の架け橋に

物質工学科

大島 一真

本年4月1日付で沼津高専、物質工学科の助教に着任致しました大島一真と申します。私は生まれも育ちも埼玉県で、これまで海とは無縁の生活でした。自然豊かな駿河湾との新たな出会いに感謝し、富士山も臨める沼津で新たに仕事が出来ることを光栄に感じている所存です。

私はエネルギー・環境に興味を抱き、日本や世界のエネルギー問題解決に貢献したいという志を持って大学・大学院と研究に従事してきました。私の専門は触媒化学と呼ばれる分野であり、特に天然ガスや水素といったものをターゲットに研究を行ってきました。両者共にニュースで取り上げられることも増え、その有効性はご存知かと思えます。しかし更なる利用拡大のためには、天然ガスの転換や水素の製造の効率をより一層高める必要があります。私は触媒に僅かな電気を印加することで、その効率を高める技術の開発、またその機構の解明を行ってきました。その中で電気化学を学び、また様々な分析にも取り組んできました。触媒化学に加え、電気化学や分

析化学にも片足を突っ込んでいるのが私の特徴です。

さて私が高専で働こうと思ったきっかけは、研究を通して社会貢献をしたいと考えたからです。研究を通じた社会貢献は、多くの大学でも行われているように、研究成果を世界に発信したり、企業と共同で新しい技術を提供したりすることが考えられます。当然ながら私も自身の研究の一つでも多く発信し、また地元企業と共同で新しい技術を提供したいと考えています。一方で私は優秀な技術者を輩出することで、社会との架け橋になりたいと思っています。私は兵庫県にある大型放射光施設SPRING-8を使用してきました。この施設はオールジャパンで作られた世界最高峰の放射光施設です。しかし残念ながら、その利用者が一部の企業や大学に限られています。門戸は広く開かれているのですが、放射光利用の認識が十分に広まっていないことが原因です。このようなことは放射光施設に限らず、様々な分野で見られていると思います。新しいものに興味を抱き学習するには多感な10代から教育が重要であり、高専は10代から専門教育が行われる数少ない学校です。私はここ高専で、新しい技術や日本の高い技術力に触れる機会を増やし、様々なことに興味を抱ききっかけを与えたいと思っています。そのために私自身の研究にもより一層精進していく所存です。まだまだ未熟者ですが今後ともよろしくお願い致します。



異文化の風が吹く 英語クラスを目指して

教養科

村松 直子

はじめまして。4月から教養科の講師として着任しました村松直子と申します。沼津高専は富士山と海の見える愛鷹山の裾野の好立地にあり、学生は様々な専門知識を持つ教員の指導のもとで、一般の高校と同様の科目に加えて専門的な勉強もできるので、素晴らしい学習環境にあると感じながら、日々を過ごしております。

私は東京出身ですが、小学校時代の1ヶ月と高校2年間を英国で過ごしました。家族で英国各地やヨーロッパの国々を訪ね、各地の芸術文化や人々の暮らしに触れ、異文化交流に溢れた日々を過ごしたことが、後に私を英語教師にしたのではないかと思います。この海外生活を通して、英語とは実は異国で出会った人々の活きた言語であり、自己実現の手段であることを実感しました。世界的に有名な劇作家シェイクスピアを輩出した英国で日常的に演劇に触れ、高校で英語劇を二度仲間と上演した

後、私は美術大学に進学し、劇場文化論、世界演劇史、演技演出、声楽、ダンスなど、演劇関連分野の勉強や実践訓練をしました。日々、仲間達と切磋琢磨しながら、地道に自らの技術を磨き、一つの作品を創りあげることに情熱を傾けた日々は、沼津高専で色々なものを創っている学生の学校生活とかなり共通する部分があるように思います。その後、演出や戯曲の勉強をするうちに、二十世紀を代表する英国作家Virginia Woolfが言語表現だけで創りだした小宇宙のような小説に魅了され、立教大学大学院で英文学研究を始めました。

一方、大学院時代から幾つかの高校や大学の学生に英語を教えるなかで、外国の人々と異なるコミュニケーション・スタイルを持つ日本人は、異文化を理解しないかぎり、異文化コミュニケーションに成功し得ないことを痛感しました。そこで、日本人の異文化理解や英語力を高めるための理論と英語教授法を研究するため、2010年にUniversity of Leicesterへ留学しました。また、世界百カ国以上から大学院生が集まる同大学のキャンパスには、英国でも稀有な程の多文化環境があり、授業や研究だけでなく、キャンパス・ライフや寮生活を通して、異文化コミュニケーションについての知見を広げることができました。

沼津高専では、これまでの英語教育の実践・研究や英文学研究の成果で培ったノウハウを活かして、学生の英

語・異文化理解がより豊かなものとなるような英語指導を心掛けて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



わくわく、どきどき

学生課長

宇野 裕之

4月1日付で鈴鹿高専から転任してまいりました。前任地の鈴鹿高専は、近鉄特急が停車する白子駅から徒歩30分ほどのところにあります。高専の道向かいにはショッピングセンター、大学、小学校があり、少し足をのばせば、交番、郵便局、ホームセンター、災害時に一時避難地となる広大な防災公園などに囲まれた好立地にもかかわらず、敷地は、ほぼ平坦で、校地面積は12万平方メートル（沼津高専の1.3倍）といった恵まれた環境にありました。

教職員宿舎も高専の隣接地にあり、職場と住居の往復だけでは、必然的に移動距離が短くなり、意図的に行動しなければ運動不足に陥ることは必至でした。そこで県営の水泳場で開催されていたスイミングスクールにチャレンジすることとしました。スクールでは、ストレッチ

から始まり、けのびや、息継ぎなど楽しませてもらいながら、あっという間に1時間の講習が終わりました。指導されたことが出来ないもどかしさを感じつつも、コーチに毎回手を変え品を変え指導していただいたおかげで毎回わくわく、どきどきしながら通うことができ、3年間でなんとかクロールで25mを泳げるようになったので感謝の気持ちで一杯です。沼津ではより長くより楽しく泳げるようにチャレンジしたいと考えています。

高専では、大学と同じ高等教育機関でもあり、先のスイミングスクールのような手とり足とりの指導を待つよりも自主的に主体的に学生生活を謳歌していくことが大切となっています。一日は「おはようございます」の気持ちの良いあいさつではじまります。はじめはなかなかなじめないこともあります。高専の5年間で自然な挨拶を身につけて欲しいと思います。上級生になると目をそらしたり、会釈だけになったりする場合があります。こちらから挨拶すれば、ちゃんと返してくれます。少しためらいを感じたとしても一歩踏みだし、わくわく、どきどきしながら前向きに一日を過ごしたいものです。

最後に、微力ではありますが、沼津高専のさらなる発展に尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

新入生から（入学にあたり）

新天地

1年3組（制御情報工学科）吉田 菖悟

静岡県は4月から汗をかくような温暖な気候だと聞き、その言葉を真に受けて薄手のシャツばかりを持ち、はるばる山梨県から山を越えてやって来れば、入学式から延々と降り続けた雨と真冬に匹敵するのではなかろうかという程の冷え込みに強烈な洗礼を受けた。

この学校に入学するにあたって、親元を離れるという事が初めてであった私の頭の中は、寮生活への不安で大部分が占められていた。しかし、その不安はすぐに解消された。寒さに歯を打ち鳴らしていた私にとって、布団にしがみつくなことが最優先事項だったため、ホームシックにかかる余地などないままに、寮での生活には慣れてしまったのである。理不尽だと感じる程の厳しい規則が無いのも幸いだった。ただ、寮に関係するTシャツを揃えるのに予想だにしない出費がかさみ、持ち合わせが少なかった私には、金銭的にやや厳しい出だしとなった。

もう一つ多くの学生が抱える問題として、勉強に関する事がある。御多分に漏れず私も（私だけなのかもしれ

ないが）向こう5年間付き合うことになる勉強ということに少なからず拒否反応が出てしまう面があり、果たしてこの先やっていけるのだろうかと思わなくもない。しかし、そもそも人によって形は違えど志があってこの学校を受験し入学したのであって、その辺りに関する事で自信を無くしてしまっただけは元も子も無い。入学以来、多くの先生方から「勉強で受け身になるな」と何度も聞かされ、自分のやり方を見つめ直し、後ろ向きにならずに自ら進んで積極的に学ぶことが大切なのではないだろう



新入生宿泊研修 オリエンテーリング出発前

かと考えを改めることができた。

至極当然な話だが、結局のところ学生という身分からは逃れられないので、学生の本分を見失わずに新天地での生活を充実させようと思う。

人柄のよい技術者とは

1年4組（物質工学科） 渡 邊 裕 香

高専の教育理念である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という言葉は、たくさんの想いが込められているな、と感じました。でも、疑問を感じました。

そのような技術者になるためにはどうしたら良いのか、と考えてみます。まず、優秀な技術者になるためには、と考えると、勉強を頑張ったり、実験や実習などで経験をつんだりすることが浮かんできます。では、人柄のよい技術者になるためにはどうしたら良いのか、と考えると、普段の生活の中や部活動の中などで身につけられそうです。でも単に部活動を頑張ったりするだけで、人柄が良くなるかという、そうでもないと思います。どうすれば人柄のよい技術者になれるのか、これが私の頭の中で疑問として残りました。

そこで、私は日常生活の中で身につけるのが一番ではないか、と考えました。なぜなら、生活の中で身につけることにより、そのことが習慣となって、当たり前のよ

期待に応えるために

1年5組（電子制御工学科） 佐々木 謙 人

沼津高専。あなたはこの校名からどのようなイメージが浮かびますか。企業の方に聞こうと、中学生に聞こうと、共通して誰しもが抱いているイメージがあると思います。それは、専門的な学習を積み、これからの工業を



新入生宿泊研修 クラス別研修



新入生宿泊研修 オリエンテーリング

うに出来るようになる、と思ったからです。その一つとして、あいさつを大切に行うこと、を挙げてみます。ただ単にあいさつをすれば良い、というのではなく、相手の目を見たり、笑顔を心がけたりなど、少し意識をすることで、あいさつをする意味が深まり、自分にも良い影響を与えられると思います。また、はきはきとあいさつをすることで、その場の雰囲気も変えることができると思います。

人柄のよい技術者になるためには、あいさつを心がけるだけでなく、自分の物の管理をしっかりとしたり、提出物の期限や書くべき内容をきちんと把握し守ったりなど、今から気をつけていく事のできることはたくさんあると思います。だから、早くからそのような事を自分の生活の中で習慣づけていきたいと思っています。

支える即戦力となりうる人材を育てる学校である、ということですが。

そして今、私はその学校の学生であるわけです。私は沼津高専の学生であることを誇りに感じています。また、それと同時に責任も強く感じています。日本の期待に、そして世界の期待に応えられる人材にならなくてはならないからです。

私は将来、医療機器の開発をしたいと思っています。健康診断の簡易化を実現する機器を開発し、病気の早期発見を可能にしたいです。今までよりもシンプルな仕組みで誰もが手軽に使うことができるような機器にすることが目標です。病気で苦しむ人が一人でも減ることを私は強く願っています。

近年の製造業界では、様々な分野を複合し、一つの製品を完成させるようになってきています。そのため、沼津高専は学際教育という教育体制をとっています。学際教育は私たちにとってたいへん有益なものとなると思います。幅広い分野の知識を得ることは、新たな発想を生み出すきっかけとなります。一年生のうちは、工学基礎という授業で自分の目指す専門とは少し外れた内容を学びます。しかし、それが今後、専門を極めていくにあたってとても大切なものとなることは間違いありません。

また、電子制御学科の専門科目には工学技術セミナーという授業があります。この授業では、先生方が過去の研究内容、そして今の研究対象について講義していただきます。この授業によって得られる知識で、今までよりも具体的に自分が作りたいものが頭に浮かぶようになるはずです。



新入生宿泊研修 教務主事講話

私は、5年間の高専生活が有意義なものとなるよう、まずスタートであるこの1年間で精一杯頑張っていきたいと思います。寮で仲間と関われる時間は、今後、かけがえない思い出となるでしょう。初志貫徹で何事にも全力で取り組んでいきます。



新入生宿泊研修 オリエンテーリング表彰

卒業生から

「何を学んだか」

機械工学科48期 宮川綾音

私は昨年春に沼津高専機械科を卒業して、現在は東プレ株式会社で自動車のフレーム部分をプレス成型する際に用いる金型の設計に携わっております。入社してからの年数も浅く、社会人としても技術者としてもまだまだ未熟者ではありますが、一日も早く一人前の設計士として認められるよう日々精進しております。

沼津高専で過ごした5年もの歳月は、間違いなく私の人生に大きな影響を与えてくれました。工学に対する知識だけではなく、学生として過ごした時間のすべてが経験として今の自分自身を支えてくれていると感じております。

学生時代、私は学外での活動に意欲的に取り組んでいましたが、それらはすべて自分の中に「机に座って勉強することだけが学びではない」というモットーがあったからです。

些細な失敗をしても大きな責任に問われないのが、学生の良いところでもあります。そういった身分を武器にして、今のうちに何事にもチャレンジしておく、社会に出てからの自分の強みになってくれるのではないのでしょうか。

勉強面に関しても、公式をただ覚えるのではなく「なぜそうなるのか」と疑問を持って、物事の本質を理解し

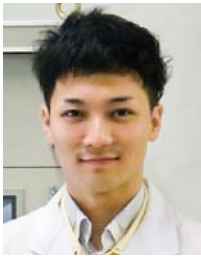
ようとする習慣をつけておくことが後々自分の為になるのではと思っております。

会社に入ってから新たに覚える専門的な知識の量は、どの分野に進むにせよ決して少なくありません。そういった時にただ表面的に覚えていくのではなく、いかに本質を理解できるかが知識の質に差を生み、結果的に仕事の質に差を生むと、私自身感じております。

つまり学生時代にどうやって勉強したか、何を学んだかが、ゆくゆくは皆さんの為になるのではないのでしょうか。

学生時代に熱中したことや苦勞したことなど、5年間で学んだことすべてが自分だけの個性となって生きる日が必ず来るでしょう。ですから皆さんも、限られた時間を存分に楽しんで、素敵な学生生活を過ごしてくださいね。





沼津高専はすごい！

電気電子工学科42期
倉田 将輝

私は高専から大阪大学に編入学し、大学院修了後に浜松ホトニクスに入社しました。浜松ホトニクスは宇宙探査機はやぶさのセンサや国立天文台すばる望遠鏡のカメラといった最先端分野から、ATMの紙幣識別センサや医療機器のX線CTのセンサに至るまで、『光に関わることなら何でもやる』という面白い会社です。私はこの会社で、世界を変える技術と言われるレーザー核融合の研究に従事しています。

社会人となった私がこの場を借りて皆さんにお伝えしたいことは2つあります。1つめは、

【社会人の実力】 = 【考察力】 × 【行動力】 × 【伝達力】
という方程式です。考察力とは知識や経験から問題を分析する能力、行動力とは実際に手を動かして問題を解決する能力、そして伝達力とは協調性やコミュニケーション能力のことです。

2つめは、沼津高専はこの全てを鍛えられる最適な環境だということです。考察力と行動力において、高専生は大学生の持つ幅広い専門知識と工業高校生の持つ実践

的技術を兼ね備えた無敵の存在です。年々増えていく専門分野の授業と高度になっていく学生実験が、これらの能力を十分に育ててくれます。問題は最後のひとつ、伝達力ですね。

伝達力はチームで仕事をする社会人の必須能力であることは疑いようがありません。しかし多くの理系の学生がこれを苦手とし、高い考察力や行動力を持っているのに発揮できない人が存在しているのが実情です。この伝達力を是非、高専の間に養ってほしいと思います。沼津高専には絶好の訓練場所、寮があるからです。

全寮制の学生自治寮として、ここまで上手く機能している場所は他にないかもしれません。規律を学び、責任を学び、団体行動を学び、リーダーシップを学ぶ、最高の環境です。一生に一度しかない機会ですから、どんな役職でも良いので就いてみてください。面白いことがたくさんあるはずですよ。寮役員でなくても、部活動でも、アルバイトでも良いので、責任のある場に立ってみてください。見える景色を変えてみてください。私は3年生で棟長、4年生で寮長を経験しました。これらの経験が、社会人になってから何よりも生きています。

確かに、勉強は学生の本分です。頑張って勉強したことは、社会に出てから何らかの形で必ず役に立つでしょう。しかし勉強以外から学べるたくさんのおとも、皆さんの将来にとってとても重要だと思いませんか。広い視野を持って、色々な自分に挑戦してみてください。

留学生から

留学生から

機械工学科3年

アハマト シャキル ハキム ビン モハマド ユソフ

初めまして、私はアハマト・シャキル・ハキム・ビン・モハマド・ユソフと申します。少し長い名前なので、シャキルと呼ばれています。私はマレーシア出身のイスラム教徒で、機械工学科3年生です。

まず、少しマレーシアについて述べます。マレーシアは東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする連邦立憲君主制国家で、イギリス連邦加盟国です。タイ、インドネシア、ブルネイ、シンガポールの近くに位置しています。マレーシアは日本より小さい国であり、人口も少ない国です。その人口は29,840,400人です。マレーシアは日本と違って、火山と地震がありません。また、マレーシアは多民族国家であり、主要な3大民族がマレー系、中国系、インド系となっています。そして、宗教は色々あります。しかし、大部分のマレーシア人はイスラム教徒です。マレーシアは様々な民族と宗教があ

るため、いろんな文化、習慣、お祭りがあります。そして、休日もたくさんあります。また、食べ物は民族によって違いがあります。皆さん、是非マレーシアに旅行にきてください。

私は日本に行く前の2年間、日本語学校で日本語を勉強しました。その後、2015年1月に文部科学省試験を受けました。そして、私は試験に合格し、日本に留学することが出来ました。大変、嬉しかったです。私は子供の頃、日本のことについてよく聞いていました。例えば、桜や富士山等です。だから、私は小さいときから、日本に行きたいと思っていました。そして、本年4月2日に日本に来ることが出来ました。初めての海外なので、とても嬉しかったです。しかし、私は日本の寒さに少しびっくりしました。マレーシアは気温35°C位ですから、とても暑いんです。私は東京駅で先輩（ライスさん）に会いました。先輩に連れてきてもらって、沼津高専まで来ることが出来ました。先輩は大変親切でした。三島駅に着いた時、室伏さんに会いました、そして、一緒に買い物に行き、物品を沼津高専に持って行きました。先輩から、沼津高専の寮はとても厳しいと聞いていました。実際、寮に入ったら、先輩の言うことが良く分かりました。私

は今、寮生活に慣れようと頑張っています。

初めて高専に着いた時、私は担任の先生に会いました。とても優しい先生で、色々助けて頂きました。私は日本に来たばかりで、日本語に慣れないため、授業内容が全然分かりませんでした。しかし、チューターの塩本君や友達や先輩から色々教えてもらって、少しずつ分かって来ました。でも、私はマレーシアで金属材料学や機構学等を勉強したことが無かったので、少し大変だと思いました。これから、もっと頑張って勉強します。既に1ヶ

月が経ちました。私は色々な経験をするのが出来ました。友達は優しく面白い人達です。色々助けて頂いて、本当に有難う御座いました。私はアミル君と二人でマレーシアから来たので、あまりさびしさは感じませんでした。でも、日本人の友達を作りたいと思っています。

最後に、私は日本に留学出来たので、とても嬉しかったです。これから、さらにもっと頑張りたいと思っています。皆さんと一緒に卒業して、大学に入学したいと考えています。だから、皆さん、宜しくお願い致します。

留学生から

制御情報工学科3年

アミル ラフィック ビン モハド ナシル

皆さん、こんにちは。マレーシアからきた留学生で、アミル・ラフィック・ビン・モハド・ナシルと申します。アミルと呼ばれています。わたしはイスラム教徒で、今年20歳になります。今、制御情報工学科3年に在籍して勉強しています。

まず、国について話したいと思います。マレーシアは、東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする連邦立憲君主制国家で、イギリス連邦加盟国です。タイ、インドネシア、ブルネイと陸上の国境線で接しており、シンガポール、フィリピンと海を隔てて近接します。ASEANの一員です。マレーシアは文化がいっぱいある国です。それは、マレーシアにはたくさんの民族があります。食べ物の種類もたくさんあるし、祭りもたくさんあります。平和の国です。

わたしはマレーシアで中学校のときから日本語を勉強し始めました。高校の1年のとき日本に行ったことがありました。神戸でホームステイプログラムを10日ぐらいしました。そのときから、わたしは日本に留学すること

を目的にして勉強するようになりました。高校を卒業してから奨学金をもらってInternational Education College (INTEC) に入学しました。そこで2年間日本に留学するための準備をしました。それから、2015年1月に文部科学省試験に合格して日本に留学しました。

4月3日に他の20人ぐらいのマレーシア人と一斉に日本に着きました。とてもうれしかったです。そしてわたしは友達と離れてシャキルくんと沼津高専に行きました。東京駅で沼津高専からの先輩が迎えに来て一緒に三島駅まで行きました。三島駅まで、室伏さんが車で私たちを迎えに来てくれました。

今日で沼津高専に入学してもう1ヶ月経過しました。楽しいときもあるし、寂しいときもあるし、色々な経験をしました。寮の生活に慣れましたが、日本語はまだ上手ではないと思います。授業の内容もあまりわかりません。しかし今少しずつ頑張ろうとして、時間が経てば大丈夫になると思います。日本人の友達もできて、皆が優しくたくさん手伝ってくれました。先生方もたくさん手伝ってくれてとてもよかったと思います。これから日本語も日本での生活も頑張っていきたいと思っています。

これからもっと日本人と友達になりたいです。そして皆と一緒にこの3年間で楽しい思い出をたくさん作りたいと思います。皆さん、これからよろしくお祈りします。

皆さんこんにちは

物質工学科3年

ムタヒ フェイス ジョキ

皆さんこんにちは。私は東アフリカのケニアから来た物質工学科3年のキジョです。ケニアは日本から遠く離れており飛行機で約13時間かかりますが、私は日本に行くことに決めました。なぜなら私は、日本という国を通して、自分にとって未知の世界を知りたいと思ったからです。日本へのドアを開くためには“日本語”という鍵が必要です。新しい言語を学習することで、自分の考えや常識とは大きく異なる世界や、寿司や相撲など日本の文化を理解したいです。

2014年4月2日に私と6人のケニアの学生と一緒に日本へ来ました。桜の花がちょうど咲き始めていました。母国のケニアでは英語とスワヒリ語が公用語なので、最初は日本語が全然分かりませんでした。来日の一年間、私は東京にある日本語教育センターで日本語や理数系科目を勉強しました。日本語の勉強はとても大変でしたが、私はあきらめませんでした。センターの先生方はとても親切で、先生方のお陰で私の日本語が改善されました。そして私は2015年3月31日に沼津高専に移動しました。私は、沼津高専は先生の教え方が素晴らしく、学生の皆さんも優秀だと先輩から聞いていました。私は、まだ日本語が上手に使えないため、授業で日本語を聞き取れて内容をきちんと理解できるか、クラスの人達となじむことができるか、様々な不安がありました。しかし、私は不安になることをできる限り考えず、逆に恵まれた良い

点を積極的に考えるようにしました。今は、沼津高専での生活が本当に楽しいです。私には寮の規則が厳しく大変ですが、女子寮生がやさしく助けてくれるのでだんだん慣れてきました。いつも私のことを気にかけてくれるチューター、担任の先生にも本当に感謝しています。沼津高専の皆さんが優しく励ましてくれ、私は以前よりももっと頑張ろう、と前向きになれます。私の日本語はまだ上手ではないのでクラスの皆さんといろいろ話したいのですが、話すことができません。早く皆さんと友達にな

りたいと心から願っています。皆さんとたくさん話ができお互いを理解できるように、私は日本語の勉強をもっと頑張りたいです。

最後に、私はケニアの家族や友達から離れ、今は日本の沼津にいます。ですから、私にとってのみなさんは私の新しい家族だと思っています。簡単ではありませんが、皆さんの一員として誇れるように、私は努力しなければなりません。皆さんよろしくお願いします。

寮生会活動について

寮生会の取り組み

電子制御工学科4年 寮長 水溜雄作

私たち沼津高専の学生寮では、本校の学生の約半数の人が生活を送っています。この規模の寮生会は全国の高専のなかでも珍しく私たちの誇れる一部分となっています。また、私たちが最大の誇りとしているのは、この全国でも有数の大規模な学生寮を寮生のみで組織された寮生会が運営していることです。いわゆる「自治寮」という体制ですが、この体制をとっている高専は少なく、そのため例年他高専から寮生会役員が研修に訪れています。このように高専の学生寮どうしでの交流もあり、私たちも他高専を訪問し研修を行わせていただいています。

また、私たちの具体的な活動では毎年5月に開かれる寮祭や夏・冬祭り、クリスマスパーティーなどひとつひ

とつの行事が盛大に開かれています。その裏側には、日常の寮生相互による指導や、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という教育理念に基づいた生活があります。人柄を育むために、挨拶・礼儀・社会的マナーを守るといった基本的なこと徹底し、優秀な技術者となるために毎日学習時間を設けて学力向上に努めています。そして、寮で身についた力は社会で評価されてきました。

500人を超える人数で団体生活を送ることで楽しい思い出があれば大変な思いをすることも少なからずあります。いいことも悪いこともすべてを含め、沼津高専学生寮で学べることは多くあります。この若い時期に親元を離れて暮らすという貴重な体験をし、自治寮でここまで発展してきたことに大きな自信と誇りを抱いています。先輩たちが今日まで偉大な寮生会を残してきてくださったように、私たちも更なる発展を目指して日々の生活を送っています。

私の高専時代

大好きな沼津高専

工業化学科21期 竹口昌之

私は今も昔も私に多くの出会いとチャンスを与えてくれている沼津高専が大好きです。私は平成3年3月に工業化学科（現物質工学科）を卒業後、大学に編入学し、同大学大学院を卒業した平成11年に物質工学科助手に採用して頂きました。学生時代、高校に進学した中学時代の友人に比べ、何かにつけ縛りのない自由奔放な校風を感じておりました。今、振り返ってみると、本校は先生方の熱意と友人と切磋琢磨する環境が私たちに考える機会を与え、私たちを前進させていたと感じております。中でも恩師との出会いは私のその後の進路に大きく影響を与えました。

本校入学時の担任は西垣誠一先生（教養科数学）でした。西垣先生の講義は黒板の左辺から右辺に向かって板書とともに理路整然と進み、論理的に物事を考える楽しさを教えて頂きました。私は数学のセンスがありませんが、数学を多少なりとも利用できるようになったことは、その後の進路に大きく影響しました。技術論文等を理解するとき、数式を理解することで内容を理解することが出来ました。私にとって数学は日本語に次ぐ二つめの言語となりました。4年生の担任は蓮實文彦先生（物質工学科）でした。蓮實先生の講義は常に考えることを求められました。「低濃度の試薬を使用するために、ガラス器具の洗浄はどのように行うべきか」などの課題が課せられ、その答えを見出すために図書館で考え、時にはクラスメイトと議論しました。何とか考えついた答えを提出すると、蓮實先生から「素晴らしい考えだよ！でも、ここはどうするの？」とコメントがあり、この問答が続きます。

知識を問われ、間違いなく回答することで評価を受けた私にとって、蓮實先生からは考えることの必要性和その喜びを教えてくださいました。5年生では卒業研究にて電気工学科(現電気電子工学科)の平林紘治先生にご指導頂きました。平林先生は電気回路を全く理解していない私に抵抗の測定法から指導してくださいました。理解したかどうか判断するために、電気工学科の学生実験で

説明するよう指示を受けたことがありました。平林先生はご自身の実践を持って学生に理解させることを基本としており、この考え方は私が目指す教員像となっております。

学生時代から成長できる機会を与え続けてくれた高専が大好きであり、今後も人柄のよい優秀な技術者になるべく努力したいと考えております。

教育後援会から

会長就任のご挨拶

教育後援会会長 鈴木邦裕

本年度教育後援会会長に就任いたしました鈴木邦裕です。保護者の皆様の代表として、任期中至らぬ点多々あるかと思いますが、皆様のご協力を仰ぎながら誠心誠意務めさせていただく所存です。

まずは、新一年生の保護者様におかれましては、お子様の進学おめでとうございます。その進学先に沼津高専を選択されましたこと、同じく子供を通わず親の一人として大変うれしく思います。入学以来数ヶ月が経過し、彼・彼女らは学生寮での新生活を過ごす中、親のいない自由にも飽きてその有難みを感じている頃でしょうし、親は親で家の中に子供がいない違和感にもようやく慣れた頃ではないかと推察します。上からの物言いで恐縮ですが、毎年教育後援会総会の前の寮見学において、親子互いにうれしそうに校内を歩いている姿をかつての自分に照らし「そうだった、そうだった」と大変ほほえましく拝見させていただいておりました。団体生活や自主自律の教えを経て、次の帰宅時には見違えるほどに大人びているはずなので、乞うご期待です。

本会に携わって4年が経過しました。私には他校に通わず子供もいます。もちろんどの学校も教職員はじめ学校関係者の方々は、学生生徒のために親身になって教育指導をおこなってくれております。ただ、沼津高専には学校にも学生にも明確な教育目的があります。それは教育理念に謳われている「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」です。一流のエンジニアたるには、座学してテストでいい点を取ってれば成せるというのではなく、人と交流し、新しい技術、違った考え方を身につける術を習得してこそであるということと解釈しています。この4年間で教職員の方々や子供から伝え聞いてきた学校の様子は、この教育理念を熱意と厳しさをもって余すことなく実践してくれていると感じています。沼津高専ブランドが、産業界に、地域に、国内に、世界に轟き渡ってくれることが親である私の願いです。卒業した先輩諸氏に続くべく、在校生の皆様もその資質に磨きをかけてくれることと期待しています。とにかくガンバレ!

本会はこの教育理念の推進に寄与すべく、学校設備や学生の課外活動、研究研修等への助成事業をおこないます。併せて役員は学校と会員との架け橋となり、良好な関係を築き、維持するよう会を運営していきます。

1年間、よろしく願いいたします。

入学に際して保護者から

高専という名の船に乗り

新入生保護者(1年1組) 長澤由美

「受かったよ!!」

「よかったね!!」

そんな短い会話を、家の廊下で交わした。

合格発表の日の忘れられない一日。

その短い言葉の中に、受験生となり走り抜けてきた様々な思いが込められていたように感じた。それは私自身も同じ思いでした。

思えば、中学3年間は部活に明け暮れた毎日でした。卓球と出会い、中学生で始めた仲間たちと共に汗を流し、中体連では市内で団体優勝!!そして個人でも県大会に出場することができ、本人にとっても忘れられない思い出となっています。高専でも迷うことなく、卓球部へ入部しました。これからは今まで以上に勉強、そして運動との両立を、頑張っていけるよう、努力してほしいです。

桜咲く4月、そして小雨の降る中、期待と不安の入り混じった複雑な気持ちで、沼津高専の門をくぐりました。入学生の皆様も、きっと同じ想いでこの日を迎えたことでしょう。

入学式と同時に入寮式を迎える子供たち、帰りは、も

う別々なんだ…。とても晴れやかな気持ちで臨んだ入学式も、式が進むにつれてなんだかさみしい気持ちが大きく膨らんできた。でも、これから自分の夢に向かって進んでいく子供たちを、離れていてもしっかりとサポートしていかなければならないし、親も覚悟を決めなければいけないのだと強く思いました。沼津工業高等専門学校教育理念である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」というのが、とても印象的です。

優秀な技術者や、研究者の方々には本当に世の中には、大勢いらっしやと思います。けれど、「人柄のよい」という部分が本当に人として、大切なことであると思うのです。

子供と共に成長を……

新入生保護者（1年2組） 秋 山 宗 紀

平成27年1月29日(木)午前10時、仕事をしながらも手に付かず合格の発表を待った時の事を今でもはっきり覚えています。

妻より高専のホームページに掲載される事は聞いておりましたがドキドキして見る事もできずにおりました。すると携帯電話が……〈梅ヶ島中学校〉からでした。携帯に出ると息子から『合格しました』と一言、その時私は『おめでとう。よかった……』と声をかけながらとうとう沼津へ行ってしまうんだ……と涙を浮かべた事を覚えております。

静岡市立梅ヶ島中学校は平成26年度全校生徒16名、息子たちの学年は男子4名、女子1名のたった5名で中学校を卒業しました。静岡市の山間地に位置する場所（市街地へ車で約1時間）にあり私自身も中学校を卒業と共に親元を離れ高校生活を送ってまいりました。今、子供と離れてようやく両親の気持ちがわかったような気がします。入学式の帰りの妻と2人での車……1人で車を運

人は必ず、人とかがわり成長していくので、これからも、諸先生方、先輩方、そして友達、たくさんの人達との出会い、そしてかかわりを大切に、日々前進してほしいと思います。

振り返ると、小4、2分の1成人式では、「科学者になってノーベル賞をとりたい!!」そして小6の卒業文集では、「海洋研究者になりたい!!」と……。果たして今は、どんな夢に向かっているのかわかりませんが、道一つにしぼらずとも、これからゆっくり考え、見つけていければいいと思います。そして夢を実現できるよう、高専という大きな船の一人の乗組員として、大きな海原をしっかり進んでいってほしいと願っています。

転中息子が好きな歌を聴き涙……そんな日々が続きましたが、1週間後静岡駅で迎えた時にはほんの少しですが成長を感じました。息子に『寮生活は楽しい?』と尋ねたところ『超～楽しいよ』と言う返事が返ってきました。（洗濯は大丈夫だろうか、友達はできただろうかななどと余計な心配はいらないな!）と私は感じました。たった1週間での出来事をあれこれ話している息子を見て少し安心いたしました。息子はまた寮に戻り、私たち親の楽しみは公衆電話からの電話でした。電話の終わりに親の私たちに『失礼します』と言って電話を切る息子に（なんで失礼します?）なんだろう?と2人で顔を見合わせました。この言葉づかいも厳しい寮生活でのやり取りで学んだことだろう?と思います。『沼津高専生』となり1カ月が経ちました。この1カ月の学校や寮生活の中で、良い先輩、先生の指導のもと成長していく姿を見させていただきました。1人ではできる事は限られます。高専生活はまだスタートしたばかりです。この仲間と共に技術者を目指す息子たちの夢を応援しつつ子供と共にこれからも成長していかなければと感じる毎日です。今後も先生や仲間、先輩方に多々迷惑をおかけする事もあるでしょうが、温かくもそして厳しい御指導をよろしく願いいたします。

事務部から

平成27年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学意思を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加

生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などです。中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、午前2回、午後1回の計3回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を

志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧めくださるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月22日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1 日 体 験 入 学

1. 日 時 平成27年8月8日(土) 9:30~15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
 - (1) 進学説明会
 - (2) 各学科・専攻科紹介
 - (3) 学内施設紹介
 - (4) 学生会企画及びクラブ紹介
 - (5) 学生寮食事体験
 - (6) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/taikennyugaku/index.html



平成27年度(8月~3月)行事予定表

平成27年

- 8月** 3日(月) 前期末試験(7月30日より5日まで)
6日(休) 終業式・閉寮式
7日(金) 夏季休業(9月12日まで)
8日(土) 1日体験入学
14日(金) 全国高専体育大会(30日まで)
18日(火) 編入学試験
28日(金) 編入学予定学生説明会
- 9月** 14日(月) 専攻科後期授業開始
20日(日) 寮生リーダー研修(22日まで)
24日(木) 授業再開
26日(土) 2年生ミニ研究発表会
- 10月** 1日(休) 後期開始
4日(日) 東海北陸地区ロボコン大会(沼津)
7日(水) 4年工場見学(9日まで)
9日(金) 2年特別研修
10日(土) 中学生のための体験授業
21日(水) 体育祭・学生総会
28日(水) 文化講演会
30日(金) 高専祭準備
31日(土) 高専祭・ミニ体験授業(11月1日まで)
- 11月** 2日(月) 高専祭片付け
8日(日) 東海地区高専体育大会(ラグビー)
9日(月) 授業参観・学科説明会(13日まで)
14日(土) 東海北陸地区英語スピーチコンテスト
1・2年TOEIC Bridgeテスト
3・4年TOEIC IPテスト
22日(日) ロボコン全国大会
27日(金) 中間試験(12月3日まで)
- 12月** 3日(休) テクノフォーラム
9日(水) 3年課外教育特別講演
3年合宿研修説明会
10日(木) 専攻科入学説明会(予定)
12日(土) 4年工学系数学統一試験
22日(火) 終業式・閉寮式
23日(水) 留学生交流会(25日まで)
24日(木) 冬季休業(1月6日まで)

平成28年

- 1月** 7日(休) 授業再開
14日(休) 3年到達度試験(数学・物理)
16日(土) 専攻科2年生研究発表会
20日(水) 3年インターンシップ説明会
3年合宿研修説明会
21日(木) 3年合宿研修(22日まで)
24日(日) 推薦入試
27日(水) 専攻科後期試験(2月2日まで)
- 2月** 1日(月) 春季合宿説明会
5日(金) 長期インターンシップ報告会(予定)
10日(水) 学年末試験(17日まで)
21日(日) 学力入試
26日(金) 終業式・閉寮式
29日(月) 5年卒業研究発表(3月2日まで)
専攻科臨時休業(3月16日まで)
学年末休業(3月31日まで)
寮生リーダー研修(3月2日まで)
- 3月** 4日(金) 入学説明会
5年卒業判定会議
7日(月) 就職祭
14日(月) 1~4年進級判定会議
16日(水) 卒業式・修了式

スポーツ大会の様子



サッカー



ソフトボール



バスケットボール



バレーボール



ハンドボール



ハンドボール優勝チーム

